

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
第461号 2020年8月25日
発行者代表 吉永幸司
連絡先 大津市柳川2-11-5
TEL 077-522-1008
発行所 滋賀児童文化協会
NPO 現代の教育問題研究所

京都文学散歩 『高瀬舟』と『高瀬川』

永橋 和行

縁あって、京都に住んで十二年が過ぎました。引越してきてすぐの頃は、観光気分で見物するところに出かけて、京都に住む喜びを感じていました。しかし次第に目の前の仕事に追われ、週末は家で休むことも多くなり、気がついて「葵祭」や「時代祭」が終わっていたということもありました。定年を機に読書を堪能したいと思いましたが、京都を舞台にした小説は実に多く、その舞台となつた場所を訪ねる文学散歩は私の密かな楽しみの一つになっていま

『高瀬舟』は、森鷗外の作品です。高瀬川は江戸初期に、京都と大坂を結ぶために造った人工の川(運河)です。江戸時代には、京都の罪人が遠島を言い渡されると、高瀬舟で大坂へ回されています。『高瀬舟』は、そうした罪人のひとりが高瀬川を舞臺に展開されます。護送役の同心、羽

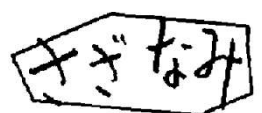
田庄兵衛は、牢屋敷から棧橋まで連れてくる間から、弟殺しの罪人の喜助の「いかに神妙に、いかにもおとなしく、しかもそれが、罪人の間に往々見受けるやうな、温情を装つて権勢に媚びる態度ではない」様子に、不思議な気持ちで接していました。舟に乗ってからも、庄兵衛は役目を離れた目で、喜助の挙動に注意をされていました。が、「いかに楽しさうな」喜助の態度が考えれば考えるほどわからなくなり、こらえきれなくなつた庄兵衛は、「喜助。お前は何を思つてゐるのか。」と呼びかけてしまします。この作品のテーマは、財産観と安楽死(ユウタナジイ)だといわれていますが、これは今の世を生きる私たちのテーマでもあります。

『高瀬川』は、水上勉の作品です。鴨川の分流「みそぎ川」(夏になると、川床の下を流れるあの川です)から水を取っている川が高瀬

川です。高瀬川は角倉了以(すみのくらりょうい)が開削した運河です。二条から木屋町通りに沿つて南下し、また鴨川に合流しています。作品は、飲み屋「六文銭」での四人の大家族の生き様を通して、表層では華やかに見える、高瀬川沿いの街の昼と夜の陰影を描いているといわれています。「うちはおでん屋よりもパーがおもしろいと思うね。表の半分を改造してな。洋風のスタンドにして、高級酒しかおかへんねん。かわいいうテンさんひとり置いて。お姉ちゃんとうちがお店へ出て。品のよいお客さんを片っ端から籠絡してやんのやな。そんな、面白いやないか、姉ちゃん。」という気性の強い妹の露子に引張られながらも、母(兼子)、姉(由枝)、姉の子(みどり)の家族模様が展開していきます。

高瀬川の両側は、飲み屋が多く観光客でにぎわう繁華街ですが(春は、意外と知られていない桜の名所で、高瀬川をバックにした桜は見事!)、また幕末の志士たちが暗躍したのも、高瀬川沿い(木屋町)でした。普段は、『高瀬舟』や『高瀬川』の作品を意識しないで歩いていますが、少しでも意識すると、歩くスピードもゆっくりとなり、見える風景も変わってくるのが不思議です。

(京都府 立命館小学校)
(大阪大学 非常勤講師)
(参考文献)
・河村吉宏 他「京都文学散歩」京都新聞出版センター2006年
・真銅正宏「ふるさと文学さんぽ 京都」大和書房 2012年



▼物語を読み、最初の感想を、「おもしろかったこと」という内容で書かせたことが、ある。教材は「三年とうげ」。感想は、おじいさんが転び病気になることや元気がなくなったことなど、多かったです。しかし、三年とうげの言い伝えやリズム感のある歌をおもしろいと捉える子やトルトリの知恵が印象に残ったという子もいた。さらに、景色が目に見えるところが好きだという感想もあつた▼感想の違いは子どもがとらえる「おもしろい」である。読んでいる時、文や言葉を想像して読んでいると、主人公の様子や気持ち伝わってくる。それだけではない。少し落ち着いて読み返すと、「三年とうげで転ぶでない」という歌が聞こえてくる。おじいさんの病気を心配する人の気持ちがかつてくる。美しいながめにとりとりしたのどんな風景だろうという想像が働く▼「おもしろい」をそれぞれの子どもが自分の視点で捉えている。それを、授業という場でどのように高めるかというのが「主体的・対話的」の入り口であろう。その時の授業は、「おもしろい」の理解を発表させ、自分の捉えた方と比べさせた▼指導の成果は、文章の構成や登場人物の設定や物語の内容理解であった。課題として、表現を支える「語彙」への意識高揚であつた。

(吉永幸司)

「作家で読もう」
弓削 裕之

子どもたちに本を選ぶきっかけとなること尋ねると、題名、表紙の絵、ジャンル、シリーズ、出版社、家族や友だちからのおすすめなど、人によって様々だった。「作家で広げるわたしたちの読書」(光村五年)では、作家に着目して本を紹介することをめあてて学習をした。

〈学習の流れ〉

- ①重松清『カレーライス』を読み、登場人物の関係や、心情表現の特徴などを確認する。
- ②重松清『バスに乗って』を読み、『カレーライス』との共通点を見つける。
- ③同じ作家が書いた二作品を選ぶ。
- ④選んだ二作品の共通点を見つけ、紹介カードに書く。

①の学習は、「作家性」を見つけるいくつかの視点を示すねらいで設定した。②の学習では、中心人物二人の関係の変化が似ていることや、気持ちを何かに例えて書いていること、「分かつてる、それくらい」と「わかつている、そんなの」のようにそっくりな書きぶりであることなど、細かなところにも目を向けていた。紹介カードには、それぞれの作品の紹介文と、見つけた二作品の共通点をキヤッチコピーの形で表した。紹介文の内容として、「おもしろかったところ」「おすすめポイント」など具体的に示したが、「親子読書郵便のように」という言葉がけをした時、子どもた

ちは一番納得した表情をしていた。「親子読書郵便」は、毎年読書週間に行っている、往復はがきに親へおすすしたい本の紹介文を書き、返事をもらおうという取り組みである。学習の継続と共通体験の大切さを改めて感じた。

《子どもたちが考えたキヤッチコピー》

- ・「少年の勇氣」(『少年探偵団』と『怪奇四十面相』の江戸川乱歩)
- ・「読めば読むほどのめりこむ!」(『闇の守り人』と『風と行く者』の上橋菜穂子)
- ・「人の命の大切さがわかります」(『パンブキン』と『若おかみは小学生!』の令丈ヒロコ)
- ・「夢のような本です」(『銀河鉄道の夜』と『注文の多い料理店』の宮沢賢治)
- ・「章ごと視点が変わる」(『温室デイズ』と『戸村飯店青春100連発』の瀬尾まいこ)
- ・「エキシマなゲームのような世界」(『オンライン!』と『ウラオモテ世界』の雨蛙ミドリ)
- ・「独特の調査法、思いがけない真実に驚かされる本」(『くちびるのねじれた男』と『赤毛軍団のひみつ』のコナン・ドイル)
- ・「驚くような終わり方の不思議な物語」(『たくさんのタブー』と『ノックの音』の星新一)

二作品の共通点を言葉にするところが、その作家の「らしさ」を見つけてのことにつながり、また新しい読書の扉を開きかけになっ

てくれればと思う。
(京都女子大学附属小学校)

作文指導
箕浦 健司

子どもたちは昨年度まで、主に朝の時間に百マス作文に取り組んできた。今年度も、学校として二学期から、朝の時間に取り組むことになっている。

これまで子どもたちが力を把握することと、学習を継続することを目指すとして、一学期にも数回、取り組んだ。最初のテーマは、「六年生でがんばりたいこと」。六月の学校再開後に取り組んだ。以下、ある児童の作品の一部。

「もう最高学年だ」という自覚をもって、一年生から五年生の見本になりたいです。...

今年度、本校の六年生は、学年目標を「一歩前へ自覚・努力・友情」としてスタートを切った。「自覚・努力・友情」のそれぞれについて、一人ひとりがめあてを立てている。この児童は、最高学年としての「自覚」を日々強く意識しながら生活しているというところが作文から分かる。紹介し、そのことを褒めた。

二回目のテーマは、「夏といえば〇〇〇」。このときは、文章の書き出しに工夫が見られた。

「ザアー、ザアー」『ピチャ、ピチャ』わたしは夏だと思えます。「ジュー」なにやらしいにおい。ぼくはバーベキューだと思えます。

「ミンミンミンミン」。わたしはセミの鳴き声だと思えます。

このとき、私がしたのはテーマの提示のみ。「『』から始めましょう。」などという具体的な工夫の指導は一切していない。しかし、子どもたちはこれまでの学習で身につけた力を発揮して、作文を書いた。学んだことをきちんと使っていること、工夫の良い例として、全体に紹介した。なにより、「書くこと」に抵抗のある子どもも、百マス作文には抵抗なく取りかかることができている。積み重ねの大切さを実感した。

全員の作文は、教室後方に掲示し、互いの作品を見合えるようにしている。そうすることで、自分と友だちの書きぶりを比べたり、良い表現を取り入れようとしたりする姿が期待できる。互いの良さを認め合いながら、書く力が高まっていくようにしていきたい。

学期末。「一学期を振り返って」のテーマで、作文を書いた。終業式に発表する学年代表は、Sさん。Sさんは、学年目標の三つの視点で一学期を振り返っていた。終業式は放送で実施したので、代表者は放送室で発表。Sさんの発表が終わると、教室で割れんばかりの拍手が起こった。放送室からSさんが教室に戻ってきたときも、自然に拍手が起きた。ねぎらいの言葉を掛ける子もいた。拍手の意味は、発表したことのねぎらい、友達のがんばりに対して、といった中には作文の内容について拍手した児童もいたのではないだろうか。今後、そんな拍手が増えるような学習を目指していきたい。

(長浜市立南郷里小学校)

コロナと学校
高野 靖人

NPO法人「現代の教育問題研究所」が、「教職経験者による教育相談」として京都女子大附属小学校に勤務して4年目を迎える。4名が非常勤講師として週に1日ずつ勤務する。1日勤務が2名、半日勤務が2名である。私は、木曜日で半日勤務。
ご存知の通り、昨年度末の3月から、新型コロナウイルス感染症の影響で、本年度の4月・5月と休業が続いた。児童がいないくても他の教員と同じように出勤して、研修等を行っていたこともあったし、管理職の指示で休業していることもあった。
登校が再開された5月25日から1学期末の8月8日(終業式)までの期間、実際木曜日のみ出勤する私の眼に写った小学校のコロナ対応や児童の様子など記してみたい。
私が久しぶりに児童のいる学校に出勤したのは、5月28日(木)だった。玄関で、教員1名による体温測定があった。おでこで測る非接触型の体温計である。私も児童と同じく一列に並んで、検温してもらった。
分散登校で、この最初の週は、児童が登校するのは週一で、2時間授業であった。だから、教室には4・5名の児童しかいない。密にならないように、バラバラ座っていた、しかも、教室の黒板前にはビニールカーテンがぶら下がっていた。担任の飛沫を避けるためである。教室のドアが外されて近くになかった。もちろん換気を十分行うためである。

児童を迎えるために準備をされたのだなと少し感動したが、次の週に行くと、ビニールカーテンはなくなり、ドアはおさまっていた。話を聞くと、カーテンは光が反射する関係で黒板の見にくい児童がいたからで、ドアは、エアコンを使用する関係らしい。もちろん換気には注意をするとのこと。
さて、分散登校は週を追うごとに2回登校、3回登校と増えていき6月の終わりには、毎日全員が登校するようになった。
しかし、それ以後も1学期中は、下学年がまず登校して9時40分から1校時、10時半から2校時を行う。その10時半から、上学年は1校時が始まる。こうした分散登校が、1学期中実施された。コロナを考え、車での送り迎えも許され、時間を決めて運動場が開放される。教員が誘導し、多い時には十台以上の自家用車が運動場に入っていた。
玄関には「ソーシャルディスタンスの図」として「児童2人の絵とその間2メートルの矢印」があるのだが、学級全員が出席している教室でそうした間隔をとるのは無理である。児童が対話する場面を見ることも少なくなった。といっても、講義形式ばかりではなく、マスクはしているが、活発に発表している授業も多くなった。
1学期最後の勤務日8月6日の朝、検温をしてくれていた養護教諭に「体温が37度5分を越えた子どもはいませんか」と尋ねると「幸い一人もいませんでした」という答えだった。感染者も出ていない。しかし、まだ予断を許さない状況である。そして今月の後半には、2学期が始まる

ユーモアを解する
読みの難しさ
蜂屋 正雄

物語文は、登場人物の心情や情景の表現を読み解くことができるように指導するもの、読み物教材は作品の良さを一人一人が感じ、それを他者に伝える方法を習得するもの、と思いがちな指導をしてきた。しかし、今回の「ミリーのすてきなぼうし(光村2年)」では、一読後の感想である「ミリーの帽子はすてきななあ」で終わってはいけないような気がして、少し、読み解く時間を設けた。
大人の自分が読むと「店長さんのユーモアセンスのある優しさ」とミリーの奔放さの対比」にも魅力を感じるのがあるが、子どもたちの読みは「ミリーの帽子の不思議な面白さ」「想像すればみんなすてきなぼうしが持てる素敵さ」に終始しており、直接的には書かれていないところが、気づいてくれる子どもはなかった。このまま、「好きなどころを書くと練習をしても、浅薄なものにしかならないと感じ、少し読み深めていくことにした。
そこで、物語文を学習するようになり、初発の感想で書かれた疑問を解いていく形で、学習を進めた。「105ページのベビーカーに乗った赤ちゃんの金魚鉢が落ちないのはなぜか」
一読目で、まだ、内容が十分に理解できていない子どもの疑問であるが、「それは、想像したらいいんやから。」
「それは、あかちゃんのぼうしなんやから。」

「だから、ゴルフしてるひともあるやろ。」
「ぞうぞう」ということばはすぐに出てきて、みんな納得して次に進むことができた。
「99ページでは、「中はからっぽ」と書かれていたのに、101ページでは、「おさいふのなみをぜんぶ手にとり」と書いてあるのはどういう意味か分からない。」
「ほんまや、何渡したんやろ。」
教師が気づいてほしいポイントの入りの質問である。その後、「お店のうらの方へ行ってしまった。」
店長さんが何をしに行ったのか、少し戻って、天井を見上げてしまった店長さんは何を考えていたのか、といったことを話し合った。それぞれ思いや考えを交流したが、全員を納得させる話し合いにはできなかった。ここで教師の結論として、強引にまとめてしまふことも考えたが、作品の読みとしては残念過ぎるよう思い、オープンエンドで紹介メモづくりに移った。
紹介メモでは、優しい店長さんのユーモアで、想像力をつかえばよい「すてきなぼうし」を丁寧に渡してくれる店長さんと自由奔放なミリーとのやり取りの面白さについて書いた子は数人で、半数以上の子どもたちは、初発の感想で感じたことを「すきなどころ」として書いていた。
同じようなシチュエーションのお話を読み聞かせつつ、2学期以降、また「ミリーのすてきなぼうし」を振り返り、直接的には表現されていないことについても読み解けるよう、計画を立てていきたい。
(草津市矢倉小学校)

自尊感情を高める
俳句教室づくり
好光幹雄

滋賀県湖南市教育研究所主催
教師力アップセミナーの報告
湖南市立岩根小学校にて(7・30)

右のようなテーマでセミナーを
させていただきました。

①夏探しく校庭出よう！

今日は、今の時期にしか見られ
ないもの、今しか感動できないも
のを探しましょう。こう先生方に
説明して校庭に出ました。見つけ
たものは、鳳仙花、朝顔、向日葵、
青紅葉、木蓮の実と蕾(返り咲き)、
蒲(がま)、萩の花、珊瑚樹の実、
楠の青葉、桜の青葉、羽黒蜻蛉、
夏の青空、雲の峰等。

②季節感を感じた言葉

会場の真ん中には季節の花と風
物詩を飾ります。そして、今見て
きたことを参考に夏の風物詩の言
葉集めをしました。花なら、今見
てきた花。食べ物なら、西瓜、メ
ロン、桃、かき氷、アイス等々。
いつもしていることですが、その
幾つかを取り上げ、その言葉にま
つわるみんなの思いを交流し、更
にその言葉の話や歴史や人々の生
活の中での有り様について私が説
明もします。

(好II好光、CII参加の先生方)
好水ですが、皆さんは何をかけて
食べられますか。

C練乳・みぞれ・いちご・ブル
ーハワイ等。

好ほら、同じ氷でもかけるものが
違いますよね。今聞いただけで、
その方の年代がわかるでしょ。

(一同笑い)。ね。でも、夏に
氷って、おかしいと思いませんか。
どうして夏に氷が食べられる
のですか。普通氷って夏のもの
ですか。・・・はい、そうで
すね。氷室ですよ。昔は位の
高い人しか食べられなかったの
ですよ。皇族とか貴族とかお殿
様とか。悲しいかなお菓子にも
貧富の差が出るんですよ。では、
かき氷が庶民の味になったのは
いつ頃からですか。・・・
Cそうか。そういうことか。昔
は高級品だったんや。

好ですから、この「氷」という言
葉の中にも歴史があり、そこか
ら人々の生活の匂いが漂ってく
るのです。さつきみぞれや練乳
と言った先生と、ブルーハワイ
と言った先生と、同じ「氷」か
ら湧き上がるイメージと感動は
違うのです。同じ言葉の中にそ
れぞれの感動が凝縮されていま
す。それを俳句の世界では「季
語」と言います。みぞれと表現
された先生の人生がそこに既に
表現されているのですよ。その
人の個性が出るわけです。子ど
もも同じです。それを互いに認
め合うことで自尊感情が高まる
のです。

③はじめての俳句指導

はじめての俳句指導という言葉
には、二つの意味があります。一
つははじめて俳句を詠む子への指
導方法。もう一つははじめて俳句
指導をされる先生にとつての指導
方法。残念ながらこれらについて
は紙面が限られるため割愛しま
すが、過去の好光のさざなみ国語
教室の記事を参考していただけ
ら幸いです。ただ、一つだけ大切
にしていただきたいことは、子ど
もの作品は子ども自身であると
いうこと。誤字脱字以外は一切添
削をしません。なぜなら俳句は一
音一字変えるだけでガラッと作品
が変わります。よかれと思ってす
る添削が実は子どもに自尊感情を
深く傷つけているのです。つまり
結局添削してもらわなければ自分
の作品は駄目なのかという思いを
抱かせるのです。指導と言いな
がら如何に教師は子どもを日々傷つ
けていることでしょうか。テレビ
でやっているような愚かな真似だ
けはくれぐれもなさならないよう
にと先生方にお願ひしました。

④子どもの作品をステージに

昔、町でばったり出会ったお母
様が「好光先生、あの家の子が国
語が好きになったと言ってます。お
まけに字を書くのが好きになっ
たと言ってます。」教師冥利に尽き
る感動のお言葉でした。

(③④はホームページでどうぞ。)

(京都・立命館小学校常勤講師)

編集後記

七月例会
(四百六十回)
講話は北島さん

「今までの作文(書くこと)の
授業をふり返って」▼①(へめざ
してきたこと)学習の基礎は日記
と読書として、日々の生活の中
で本を読み、文章を書くこと、
及び読書と書くことが生活の一部
になること②(作文指導で大切に
してきたこと)として、毎月4〜
6時間のまとまった作文学習を行
うこと。週に3から4回、日記を
書く家庭学習の設定。内容として、
「何を書くか」「どのように書く
か」の指導と生活的文章や実用的
文章など、いろいろな文章を書く
経験をさせる。また、生活の交流、
学習のふり返りの場等。長年の実
践をもとにした、実践の知恵を発
達段階に沿ったお話を伺うことが
できた。▼感想及び実態の交流で
は次のことが話題になった①日
記を生かした指導について。学級
通信の発行と書くこと指導の関連
について②低学年における書くこ
との指導。時に興味を持たせるた
めに、題材や書かせ方について③
「深い学び」と書くことについて。
子ども学習成果の確認としてふ
り返りついて④書くことに興味を
持たせる機会をどのように行うか
⑤長い自粛生活と子ども言葉、
そして、新しい時代の国語教育と
書くことについて話し合った▼北
島さんが師と仰がれて高野倅生先
生の言葉「小学校の先生は国語の
先生」の意味を共有した。

▼巻頭には、永橋和行先生から玉
稿をいただきました。深謝。
(吉永幸司)